

平成24（2012）年夏の夜間 開園時の夜開性・夜香性植物と ライトアップした植物について

磯部 実・高井敦雄・島田有紀子
内田喜章・濱谷修一・井上尚子

はじめに

平成24年の夏の花と光のページェント（夜間開園）は8月18日、19日、25日、26日、9月1日、2日に開催した。園内で開花または芳香を入園者に楽しんでもらえた夜開性植物とライトアップした植物について記録する（表1、2、写真1～8参照）。特に本年は温室ではフウラン、屋外ではツキミソウ、マツヨイグサ、ユウスゲを新しく展示することができた。

なお、4月に2回と12月に8回夜間開園を行ったが、4月には夜咲き熱帯スイレン、12月には夜咲き熱帯スイレンとパラグアイオニバスが展示できた。

開花状況

概要については表1、2のとおりである。

サガリバナは地植えの個体（樹高4m）が8月上旬より開花を始め（写真1）、8月中旬には最盛期になり9月には開花数は少なくなった。過去4年は夜間開園が始まる前の8月上旬にはほとんど咲き終わっていたので、前年の秋の剪定は例年よりさらに遅い11月下旬と12月下旬の2

回に分けて行った。

平成24年の開花率（花芽をつけた新梢の割合）は例年より低く、その原因としては隣のカエンボクや南側のヤシ類、早春に新設した雨よけシートなどによる日射量の減少による影響と思われた。

その他、正面池そばの自然実生個体（樹高約2.5m）や20号コンテナ植え個体1本（樹高約2m）は、充実枝の捻枝や下方誘引を行ったところそれぞれに開花率が良く、9月からはこれらの開花状況を展示することができ、夜間開園終了後の10月下旬まで開花した。

夜咲き熱帯スイレンは、順調に生育し、多くの花が咲き、日中でも曇った日は午前中にも花を見ることができた（写真2）。オオオニバス類はオオオニバス、パラグアイオニバス、ロングウッドオオオニバスのいずれかが開花した。特に1日目の花が開花する日は、蕾が夕方から強い香りを発した。

ヤコウボク、イランイランノキは良好に開花し、夜間開園時には展示することができ、芳香を楽しんでもらえた。イエライシャンは、9月に花の数が少なくなったが、途切れることは無かった。

ヤコウタケは菌床20個を6月中旬に導入し、昨年と同様に冷房室（ベゴニア温室）に移動するなどの暑さ対策を講じたが、8月は発生せず、9月から発生し始めたので2日間のみの展示となった。その後は10月以降の気温低下時は熱帯スイレン温室に移動するなどして10～11月に多く発生し、大温室トンネル内の暗黒の展示場所に

表1. 平成24年夏の夜間開園の夜開性、夜香性植物開花状況

主な展示植物	開花性状	展示場所	8月18日	8月19日	8月25日	8月26日	9月1日	9月2日	備 考
サガリバナ	夜に咲き、香る	大温室	◎	◎	○	○	◎	◎	地植え個体開花やや少ない。9月からは鉢植えのみ
イエライシャン	夜に強く香る	大温室	◎	◎	◎	◎	○	○	後半少なくなった
イランイランノキ	夜に強く香る	大温室	◎	◎	◎	◎	◎	◎	順調に開花
ヤコウボク	夜に香る	大温室	◎	◎	◎	◎	◎	◎	8月は鉢植えのみ。9月は鉢植え、地植えとも開花
ヤコウタケ	夜に光る	大温室	×	×	○	○	◎	◎	朝夕涼しくなった後半に発生が多くなった
夜咲き熱帯スイレン	夜に咲く	スイレン温室	◎	◎	◎	◎	◎	◎	サーギャロード、プベスセンス、ミセスエミリーハッチング、マルーンビューティー
オオオニバス属	夜に咲き、香る	スイレン温室	◎	◎	◎	◎	◎	◎	パラグアイオニバス、オオオニバス、ロングウッド種
フウラン	夜に強く香る	展示温室通路	◎	◎	◎	◎	◎	◎	遅咲きの系統を展示。展示日時または個体によって香りの強さが違った
ヨルガオ	夜に咲く	森のレストラン前、ベゴニア温室前	○	○	◎	◎	◎	◎	順調に開花
フウチョウソウ	夜に香る	花の進化園、カスケード	◎	◎	◎	◎	◎	◎	順調に開花
オシロイバナ	夜に咲く	花の進化園、カスケード	◎	◎	◎	◎	◎	◎	順調に開花
タマノカンザシ	夜に香る	花の進化園	◎	◎	◎	◎	◎	◎	順調に開花
ウリ類（ヒョウタン、ヘビウリ）	夜に咲く	屋外展示場前	○	○	○	○	○	○	開花数が少なかった
ツキミソウ	夜に咲く	屋外展示場前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	順調に開花
マツヨイグサ	夜に咲く	屋外展示場前	◎	◎	◎	◎	◎	◎	順調に開花
ユウスゲ	夜に咲く	屋外展示場前	◎	◎	◎	◎	○	○	信州産の株を展示。後半は少なかった

※本年は夜間開園開催期間中にゲッカビジンの開花は無かった。夜間開園終了後の9月5日ごろ開花した。

において展示することができ、入園者には好評であった。

ゲッカビジンは期間の前後に開花したが、夜間開園時には開花しなかった。

フウランは遅咲きの系統（奄美大島など南西諸島産）を中心に冷房温室で開花抑制するなど調節し、期間中常時10株以上の展示することが出来た（写真3）。

オシロイバナ、ヨルガオ、タマノカンザシは順調に開花した（写真4、5、6）。ウリ類（ヒョウタン、ヘビウリ（写真7））は初期の生育が悪くやや開花が少なかった。

ツクミソウ（写真8）、マツヨイグサ、ユウスゲはほぼ期間中開花したが、ユウスゲは期間後半の花が少なかった。

その他夜の植物を入園者に楽しんでもらうため重要な種類についてはそれぞれの照明によるライトアップで夜の開花状況を展示した（表2）。

課題と対策

サガリバナは個体が大きく成長したことによって開花数が増え、多くの花を見ることができるようになったが、本年までは開花盛期が8月になるため、開花盛期が夜間開園時期の8月下旬～9月上旬になるように冬の剪定時期をさらに遅らす工夫や、周辺植物の剪定による日射量確保による開花率の向上、鉢植えなどの若い個体は捻枝など花芽分化促進による開花数の増大が必要である。

夜咲き熱帯スイレンは水温を適切に保てば、ほぼ1年中花を咲かせることが出来ている。

オオオニバス類はオオオニバス、パラグアイオニバス各1株、ロングウッドオオオニバス2株とで計4株を展示し、いずれも大株に成長させることができ、多くの花を咲かせることができた。8月に開催するオオオニバス試乗体験会でも活用する主要な植物で、大きく育てることが重要課題である。

表2. 夜間開園時にライトアップした主な植物（夜開性、夜香性植物以外）

展示植栽場所	植物名	備考その他詳細事項
小花壇横	ゴーヤの緑のトンネル	長さ20m、幅4m
カスケード	クレオメ	
展資料館前	イリオモテアサガオの緑のカーテン	長さ50m、高さ9m
盆栽展示場	クロマツ、ニシキマツ他盆栽	
大温室前広場	キッチンガーデンの植物 ルコウソウの緑のカーテン	ナス、トマトなど
大温室前	巨大カボチャ	アトランティック・ジャイアント
大温室	バナナ類果実と花 タビビトノキ、ヘリコニア（花） ヘゴ ラン類 パパイア、パイナップル、カカオなど熱帯果実 アリストロキア花 ソーセージノキ果実 アダン果実	赤バナナ、台湾バナナ、ビジンショウなど ヘゴ、ヒカゲヘゴ コショウラン、パフィオ、カトレヤ、オンシなど
スイレン温室	ネベンテス他	室内照明と併用
フクシア温室	フクシア 野生ラン	室内照明と併用 カトレヤ・ラビアタほか
サボテン温室	キンシャチ、リュウジンボクなど アガベ	室内照明と併用 ファイリウスパリュウゼツ
展示温室	薬用植物展	室内照明使用
ベゴニア温室	球根ベゴニア、木立ベゴニア他	室内照明使用
ベゴニア温室周辺	おもちゃカボチャ、ヘチマ、ヒョウタンなど 巨大ヒマワリ ベルチバナバナナ	8月25日以降ライト撤去 8月25日以降ライト設営
花の進化園	オミナエシ ランタナ ツノゴマ サギソウ リコリス（キツネノカミソリ、ナツズイセン）	8月25日以降ライト設営 8月25、26日にライト設営
屋外展示場	変化咲きアサガオ展	
森のレストラン前広場	モザイカルチャーカモの飛行	

ヤコウボク、イエライシャン、イランイランノキについては適正な剪定とカイガラムシなどの害虫の徹底防除を行うことにより開花を確実なものにすることができると思う。

ヤコウタケは充実した菌床を早めに導入し、発生に適する環境の整備が大切で、特に高温時に冷房室などで発生適温を保ち発生を促すなど、展示技術の確立を目指す必要がある。むしろ秋から冬の平均室温20℃前後の時期が安定して発生するので冬の夜間開園での展示を検討したい。

ゲッカビジンは開花が不安定であり、安定的に開花させるためには冷房室などで花芽分化や花芽の発達をコントロールする方法を検討する必要がある。特に今年は去年の半数程度の開花数しかなかった。

フウラン、タマノカンザシ、フウチョウソウなどは照明の強度や説明表示方法の工夫によって香りの演出を行い、さらにわかりやすく効果的に行う必要がある。

ヒョウタンやヘビウリは花と果実が美しいので、更なる効果的な展示方法を、検討する必要がある。

ツキミソウ、マツヨイグサ、ユウスゲは夜咲き植物としてにほんで親しまれてきた種類なので、展示点数の規模拡大と自生地の再現をするなど展示方法の工夫の必要を感じた。

謝辞

ツキミソウの挿し穂及びマツヨイグサの苗を高知県立牧野植物園から分譲いただきました。厚く御礼申し上げます。

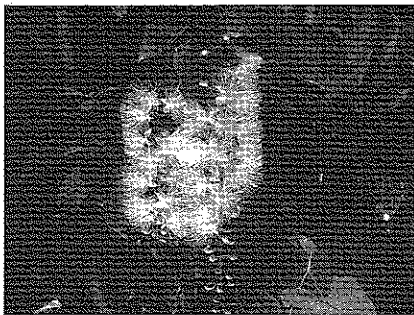


写真1. サガリバナ

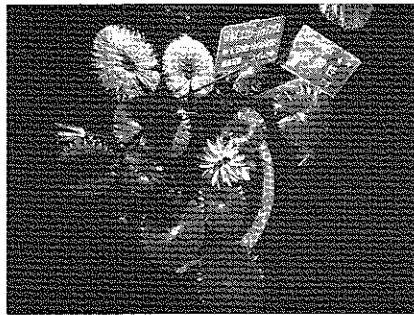


写真2. 夜開性熱帯スイレン

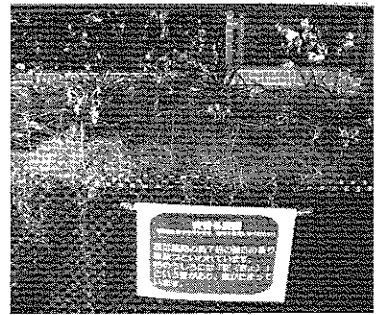


写真3. フウラン展示



写真4. オシロイバナ

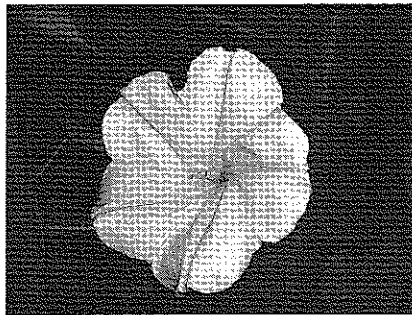


写真5. ヨルガオ

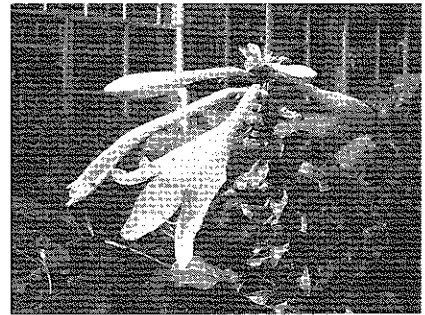


写真6. タマノカンザシ

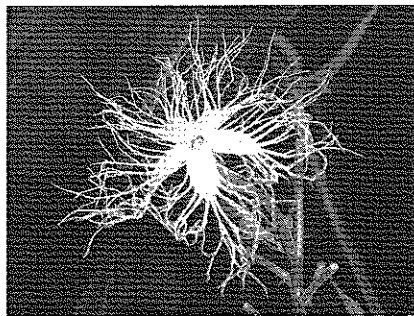


写真7. ヘビウリ

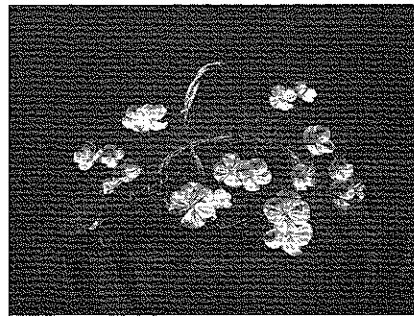


写真8. ツキミソウ